

とある世界のスクール ライフ

霊狐 月華

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

自分の動画の没案と化したり先送りになった話

主人公たちの設定は適当な初投稿作品

そう舞台は異世界への転校から始まる

ちなみにこの世界の明はかなりピュアな子だ

目次

始まりの朝？	1
元凶現ル	6
厄災現る（雄二にとっては追い打ちつてとこ）	16
転校準備その①	22

始まりの朝？

いい加減に起きろーー

朝から何なんだ

明「もう朝だよー」

もう少し寝かせてよ

明「仕方ない 遅れても知らないよ振り分け試験なんだけど今朝は」

ああああああああああああ

桜「ごめんごめん今着替えるから」

明「すぐにしたに来ないと朝食抜きだよ」

桜「さー さー イエッサー」

明「よろしい急いでね」

「うんやっぱ明久のご飯はうまい
さてと急ぐか」

明「でもこうなるなんてねー」

桜「BBA長ダカラネシカタナイネ」

美「アキ、ロロおはよう。あんたたちにしては早いわねー」

うん確かに早い。そして男の僕たちの全力疾走についてこれるてすご
ちなみにこの人は前の学園での級友の島田美波

雄「ムツツリーニはどこだ」

ム「・・・ここだ」

ムツツリーニだ。相変わらずの隠密だナー。そして女装させられた痕跡が

髪に

本名は土屋康太 コウタって どっかの隊長さんみたいだなと思う今日この頃
ちなみに康太を探してたのが神童坂本雄二 ちよつと前の一軒で神童として復活済
み

あ あれは秀吉だね 木下秀吉 女の子の双子の姉 優子さんよりも女子女子して
るんだよね

秀「おぬしら行くぞ。急がんと鉄人に何と言われるか」

オウノー

忘れてた

明「急ごう 昼食はもう持つてきてるから」

さつきから漂ういい匂いはこれかー

そして明久って女の子っぽいよなー

ちなみにフルネームは吉井明久場合によっては明菜になるけど

キーンコーンカーンコーン

セーフ

「さてこれからテストを．．．．．」

うんうん余裕余裕 こつちの振り分けテストもこんなに簡単だなんてね
さてさてさてさーて

??? 「ドサツ．．．」

ひ 姫路さん

明「!!先生 姫路さんが．．．」

な デジャブってるなんで

「途中退室は零点だ よろしいかな．． 吉井君君は好成績者らしいな．．まさかここで
出ていくなんてことは

明「僕は姫路さんを保健室に運びます．．．って 何をしているのムツツリーニ」
姫路さんの口元に耳を当てたりして何してるの

ム「……………診断終了……………呼吸音異常あり……………体温約39度

お前ら だけ」

急ぐよ

美・明・雄・秀「いそぐぞ」

またこうなるのか

今気絶したのは小学校の頃に一緒だった姫路瑞希さん

そうこの元凶は数週間まえに

そうそれは文月学園でのことであつた

姫路さんは前にもこんな目に合つてる

ここが一神制の管理下にあるならその神に殴り込みをかけたいけど違うからやめて
おく

そしてテスト中の途中退室として0点として

僕たちの居た馬鹿の集まりFクラスへと来てしまっていた

そして数か月後にあの騒ぎが起きた

元凶現ル

ふー朝が早いのはきついよなー

ここは某県某所の山道の中

まあそこまでもないし　せいぜい心臓破りの坂つてどこかな
つてヤバイいそがないとね

「明久、なんか嫌な予感するのは気のせいかな」

なんか嫌な感覚がするんだよ　うちの学園長はめんどいからな

お陰様で嫌な感覚に鋭くなってるんだよ

「あはは、ろくな気配がしないのは確かにそれに見てよ……アレ」

ウソン　な　なして鉄人がまだ遅刻じゃないのに　あそこにスタンバってんだよ

「あのさどうするって自然にとうろう」

「[[異議なし]]」

フア　二人もいつの間に

「ムツツリーニ、雄ニステルスしないでよ心臓に悪いから」

「はあ、あんなん見て近づけと一転のか御前」

行くしかないでしょ登校しないと逆に死ぬからね

ってあ 明久が先に行ってるしー

「あ あのオオはようございませすスネーク」

ておいおいおおいおいおいおいおいおい

明久ヤバイよヤバイよそれはあかんって

叱られるって

行くよみんな

「OK」

「あわわ すすみません鉄 じゃなくて西村先生」(涙目)

「させるかー」

「はあ そんなに俺はあの高名な伝説の傭兵にしているか、まあいいんだが

そうそうそこの突っ込んできている連中も学園長から連絡だ、

後で教室で確認して来いいいな。」

あらてつきり切れるもんだと思つたのに

ちなみに目の前の声も体格もカロリーメイト好きの傭兵みたいな人がチート教師西

村教諭

趣味のトライアスロンによって身体能力は人類を超えている

まああれはすごいよほんと持続時間短いけど空間をけることで空を飛べるんだよこの人は

耐久力も下手すりやまるで重装騎兵並みに固くさらに超動きもいいと傭兵したほうが

給料いいのにな さらつと銃の扱いも知ってる風だし

「「おはようございます」」

「うむ 今日も学業に励めよ」

「はーい」

学校についたけど

絶対に何かあるよねコノ感じ

「お前の顔から察するにお前も違和感があるよな」

「・・・警戒すべき」

「そうだねムツツリーニ ソシテサツキトツタボクノシャシンヲワタシテモラオウカ

ネ？」

明久が怒ったよ

「・・・少し待ってほしい 取引を申し込む」

「ホオウ スコシマツテアゲヨウ」

ななにをやる気だよあのむつつりスケベ

そういえば入学当初はボクとアキは女の子だと思われたっけ

懐かしいなあ そういえば 家出のカーस्टが改善されてなかったら

アキってやさぐれてたのかな まあ

ボクや玲ねえが全力でエッチイのはシャットアウトしてるから大丈夫かな

may

be

明久side

「ソレデトリヒキツテナニナノカナン」

「・・・桜狼の寝顔写真＋燕尾服姿の写真」

「ホントにく 詳しく教えてくださいお願いします」

「・・・写真のうち一種の販売を要求する」

「うむむ うん分かったけどほどほどにね」
「・・・了解。・・・契約成立」

なんだろうヤバイ取引の気配がした

「どうしたおまえかおいろがわるいぞー」

「大丈夫だから雄二 気にしないで」

にしても本当に嫌な予感しかないなぜや ボクたちなんもしてへんやろ
さてとそろそろ教室に行かないとね

あ 明久がかえって来たさてと ってヤバイヤバイ急げ急げ

ガラガラガラガラー

セ セーフ

この超ボロボロの部屋が僕らの教室Fクラス教室

いつ来ても滅入る

なつたしハハハ

「どうしたんだい学校の長の話を聞けないのかいクソジャリ共が」

うわー口悪いわー

「まあ見てのとうり外の学校に行ってもらうよ、この世界の外にね」

ああなるほどね　　つてはああああ

いやいや幻想郷に寺子屋以外の教育機関あつたか

「そのジャリにわ心当たりがあるが違うさね」

「まさか極東郷ですか、境界線の管理がきついだのつて」

おおお明久よく覚えてるな、なるほどね緊急事態でいったことがあるけどあそこなら

あるが

行きずらいらしいぞアレ

「あのよくわからんのだが、つまりは異世界に行つて来いと・・・」

「つまりはそうゆうことさね」

あ　雄二少し青くなつてる

「はーいここからは私がするわ」

あ今来た人は幻想郷の賢者　八雲紫

年齢は数千歳らしい、ちなみに彼女は空間にスキマと呼ばれる転移ゲートをこじ開け

れる

緊急時の時にはこの人の力を模倣させてもらったことがあるんだよね

「まあ簡単に説明するとあちらにも境界線を管理している奴がいて、それをどうにかしきつたから普通に來れるとゆうことね。それに、『住居は私が用意するのでお楽しみに』とも言っていたわね」

あうつすらとわるいこと考えてる目だー

明久 side

うううう頭が痛くなってきたよー

なんでまたこんなめんどくさいことにー

はー住居???? まさか

「そうそうあつちに該当者はひっこしてもらうさね、みんな。ちなみにこつそり各保護者の許可はあるので気にするなさね」

なanan 　　なんでー　　うちのお母さんなんで許可したのー

「あのなのじゃが部屋割りはどうなるのじゃ」

あ　　秀吉だ　　ま　　まあきになるよねそこ　　ん

「秀吉もしかしていく気満々？」

「うむもちろんじゃ、異世界に滞在とは滅多にあることではないからの。幻想郷を除いて、じゃが」

あうんわかんだね はあああああ

「どうしたのアカテンション低いじゃない」

「うん。美波こそ楽しそうだね」

「そりゃあそうよ、あそこって日本に近いから初めて日本に来た時より楽しめそうよ」

「え、いやいや、葉月ちゃんは どうするの？」

「あれ、ほらいちお自由に行き来できるって書いてあるし」

うみゆみゆ どうしよう 皆行く気満々

「ねえ口口どうしよう」

「覚悟を決めるしかないんじゃないかなたぶんこれいじよ」そうそう霊夢たちも来るそうよー」ふざけるなー」

見事なフラグ回収 ううん はあああああこれでお姉ちゃんが泊まつたら最悪

添い寝させられて

いやだいやだイヤダイヤダイヤダヤヤツヤツヤツヤアアアア

あれ明久の様子が変だな　あ　玲ねえの心配か
んあいつどうしたん

「うそだ、馬鹿な、何故だーーーーーなんで、なんで翔子たちがーーーー」

ハイ？

まあでもあくまでも人間らしいけどね

ちなみに彼女は雄二のことが好きなヤンデレさんである

「……………どうしたの、何か微妙そうな顔して」

「ほえ？あ、ああうんなんでもないから……………ってストッププー」 スツ

危なっ、くっ。なんでこの人手錠持ってるのもー

「あれれ、やばそうだねーロロくーん」

この人は工藤さん ムツツリー二と約100点差という驚異的保健体育の成績を

持つ

この人はかなり悪戯（セクハラ）をしてくるんだよね

明久 side

「あつちはあつちでカオスなことがおきてるね」

襲われないように早く逃げよう

「あ、吉井君どこに行くんだい」

「ひゃわ、あうん工藤さんたちに襲われないように逃げようかとね、あはははは」

彼は久保利光君 学年次席のすごい人なんだよ

けど彼と話していると変な感じになるんだよね

ちなみに彼は闇系統のマナを得意とする人

こつそりと研究してあれほどまでの魔導士になっただって

家族に秘密つてすごいよね

「そうなのか、だった」「ウチノコニテヲダスナ」

「ほーう過保護はやめたらどうだい」

ロロside

貴様ウチノコニナニシヤガル

「キサマーーーーー」

「ななな、落ち着いてよ二人ともこうなれば……………えいつ」

「「きやわいいいいいいいいいい」」

やつベーーーーーかわいいよー

あのクソ眼鏡なんざどうでもよくなってきた

「……………写真はまかせろ」

「頼む僕ではあの女神を完全な姿で撮影することができない」

「こら、でも口口と久保君ならいいかな。あといつこのメンバーならいいよ仕方なし」

「オイ、FFF団、テメエラカツテニトツタラ・・・コ・ロ・ス・ヨ」

「アツハイ」

「これどうして

「あらららこれって新世界創生スベルじゃないかナー」

「あああれか、つてかやめろ」

えなんでー

「この可愛い子を霊夢たちにも見せるために強制転送ポイント作うと思ってたのに

「やめなさい、いいかしら。それしなくても今日一日そのままにしておけばいいじゃない」

明久side

転校準備その①

なんで同じ家————

先生これって思春期男子ですよこれって思春期的なあれがおきちやうかもだよ

なあ なあ

「西村教諭、すみませんがこれは異性交遊につながるかもしれないかもしれませんがそこにかんしては？」

そそそそうだよ ね ね

「んそれか。各家に一人ずつ教員がつくとのことだ。まあ気にするな」

なんて教員だよそれでいいのか

「ツ………ハイ」

あいつは、なーに考えてたんだ まあ 明にてえだしたらぶっ飛ばすけどな

「おいおいこれじゃ、俺の貞操が危険すぎんだが——」

雄二それ今更過ぎて笑えるだけど

「な、難儀じゃな」「………恨めしい……。」

うううんあの人からは吸血鬼と淫魔系の力を感知したんだけど 腹上死しないとい

いけど

「・・・死ぬほどはしない。でも強化はする」

「まじかよ。あいつ殺すか・・・」
「血祭りだー」

おいこら こんな民間人もいるところで暴れんな

「ギラッ」

人ならみで黙らすとかすんごいは鉄人

「キサマらさつさとそのでかいのをなおせ」

あれFFF団ってアイアンメイデンとか持ってたのか、怖ー

さてと

「部屋ぎめっていつするんですかー」

「明日から極東郷に引っ越してもらってからそんな時にでもしときなクソジャリが」

「マジかよ」

「それと、あそことここはかなり時差がある。つまりはここでの一日があつちの一年だったりするわけさね。まああつちでの時間に慣れるまでは一時居てもらうさね。」

おいおいマジかよくそつたれ

「クソババアが」

明久 side

どうしようたいへんなことにならないかな これ

「これはマズいか、いやしかし明久君と同じ家になればかなり・・・」

どうしたのかな 久保君

「こいつはやべーな。ツーカー見ろよ、あの家の組み合わせ」

「なにこれ、AクラスとFクラスが同じ家ー」

「これはよそうがいだね君たちと同じ家に住むとわね」

い 意外だ てつきり別に必ずすると思ってたのに というか久保君嬉しそう

「しかもおい、いつものメンバーが一つの家に集まってんで、これ」

雄二 すごく焦ってない なんか いつもと違う

「困ったなこれh つぶ 何をする翔子」

ま マナが ってあの人だれ

「なんだその人を初めて見たひとを見るような視線で んそうかお前には話したことしかなかったな」

これが雄二のもう一つの可能性の姿

「翔子すまんが戻してくれ。ちからしごとがおきつかもしれねえのにこれはな」

確か体が弱くなるんだっけ アレ

桜狼 side

「ううん 行き方が知りたいんだけど」

「それは今から説明するさね。クソジャリ共がくつちやべってるからいつてないのさね」

「ごめんなさい けど言わない つけあがるから この人

「行き方は簡単さねこの後『扉』を作るから後の家の部屋とかはついてから決めな私からは以上後は西村教諭頼んだよ」

あ ババア長逃げた

「というところで明日のことについて話させてもらう。まず、第一に明日は普通に登校しろ。」

第二に9時までには体育館に集まれ。集まらなかつたらとある回収部隊を送る。簀巻きになりたくなかつたら来い。とりあえずはこんなとこだ」

マジかよ「オツケー 没収品が報酬な」「アキちゃんが報酬ね」「ロロちゃんを報酬ね」

「ということだ、多分明久たちは来なかつたやつを本気で恨むと思うからこい」

「「サー・イエツサ」」

まあ明久に恨まれたくないからいくだろ

「それといい忘れていたが、着替えくらいはもつてこい。それ以外は家財道具一式は用意してあるそうだ。」

それからゲームなんかは家に持ち込んでもいいそうだよかつたな。」
着替え以外もいいよな

翌日

仕方がないから 時間切れになりそうなときには いちお全員来る準備してたから

強制転送した

仕方がないね遅いんだもん皆

「良かった皆間に合つて。景品にされたらきつと着せ替えさせられるもん」
着せ替え程度じゃ済みそうにねーぞこれだと

「アキちゃんとやり・・・ピチューン」

誰がやらせるか向いていいのは玲ねえと俺らだけなんだよ

「桜狼俺ツイネタはわかりにくいぞ」

「なんでわかんだよ雄二」

「いや、あの時の愛香の姉、元ヤンにしか見えなかつたから印象が深かつたから」

「あははあれは怖かつたからね」

「お前も読んでるのか」「うん」

「おいゴラアあんなカオスなラノベ読ませるなよ」

うっせー玲ねえがOK出してんだ黙れ

『こんにちは、文月学園の皆さん』

誰だ

「怪しいものじゃないわよ。紫じゃあるまいし」

え 幼女？それにこれ鬼族っぽい気配だがさらに強力だぞコイツ

「いやあのさ、敵じゃないからね。せつかく幻炎学園生徒会長としてやってきたつての
にナ」

え マジすか 会長さんすか

「そ 私がこの学園の会長の「照神 天」よ。あと私境界とかに干渉できるから」

「紫かよ」「む、あのうさん臭い賢者と一緒にしないでくれる、復活の神童君」

雄二のことを知っている、やっぱりただものじゃねーな

「ふふふ、まあ転校楽しみににってるわ。」

「これは大変だね」

まったく、なんか顔が玲ねえぼくなってることに恐怖を隠せないぜ